

8	主題：ご利用者の笑顔をお届けする取り組み	
	副題：記録ソフトなど ICT を活用した業務改善、ご家族支援	
部 門： <input type="checkbox"/> 施設 <input checked="" type="checkbox"/> 在宅 <input type="checkbox"/> 地域包括ケア <input type="checkbox"/> 市民活動		
事業所種別・名称	第二清風園高齢者在宅サービスセンター	
発表者：諏訪 淳一	アドバイザー：	
共同者：		
電 話：042-736-6908	e-mail：day-seifu2@san-ikukai.or.jp	
F A X：042-736-6903	U R L：	
今回の発表の事業所 やサービスの紹介	所在地 町田市薬師台 3-270-1 特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業所など併設した施設です。	

<p>&lt;一. 研究前の状況と課題&gt;</p> <p>団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者となる 2025 年に 34 万人もの介護人材不足が生じると言われている「2025 年問題」など、現在そして近い将来の大きな課題である。現在多くの介護現場で人材不足が生じており、人材不足はスタッフの負担の増大だけでなく、職場環境の悪化による虐待・ケア品質の低下、さらに離職の増加といった悪循環をもたらす要因となると考える。上述の背景から ICT の技術を活かし、介護現場の負担を減らすことで、人材不足の解消、ケア品質の向上に繋げるサポートの役割を果たすことに期待し、施設経営方針の中に掲げている「ご利用者に寄り添う時間を創出できるよう」業務の効率化、集約化、ICT 化に取り組むこととなった。</p> <p>《2. 研究の目標と期待する成果・目的》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ICT 活用によって業務負担の軽減、新たな支援の創出などに実際に役立ったのか。</li> <li>• ICT 活用が施設、職員が大事にしていることが継続されるのか、サービス向上や利用者、家族満足度向上に繋がるのか。</li> </ul> <p>《3. 具体的な取り組みの内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• インカムの導入、記録ソフトの機能を活用した連絡ノートへの移行など ICT の活用についてデイサービス部門全体で取り組む。</li> <li>• 2023 年 9 月キックオフ、2024 年 1 月から開始。法人デイ連絡会での議論。</li> </ul> <p>《4. 取り組みの結果と考察》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• インカム導入には反対意見もあったが、導入</li> </ul>	<p>後は人を探し回ることから解放され、更に利用者の近くにいることで関りを持つ時間が増し、利用者の安全も強化された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 手書きの連絡ノートは温かみのあるものだと職員間では評価され、その変更には抵抗もあったが、導入後に実施した家族アンケート結果では、ほとんどが高評価であった。</li> <li>• ソフトの活用は作成時間の短縮化に繋がり、その分を利用者との関りを持つ時間にあてることができ、更に家族支援の継続、向上に繋がった。</li> <li>• ノートの作成に時間を費やしていた分、他の業務進行が遅れ残業に繋がっていたが記録ソフトに移行した途端に残業が大幅に軽減された。</li> </ul> <p>《5. まとめ、結論》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ICT の導入というのは導入時に一時的に時間がかかったり、これまで大事にしていたものを捨て去るようなマイナスイメージを持ちがちだが、実際にやってみるとメリットも多い事がわかった。ICT は人にとって代わるツールではなく、人がより活かされるためのツールだと痛感した。</li> </ul> <p>《6. 倫理的配慮に関する事項》</p> <p>なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。</p> <p>《7. 参考文献》</p> <p>介護現場における ICT の利用促進   厚生労働省 (<a href="http://mhlw.go.jp">mhlw.go.jp</a>)</p>
--	---